

① 現状把握・将来の見通し

1. 佐倉市の人口状況

(1) 人口の推移

昭和40年に約4万人であったものが、10年後の昭和50年には8万人、昭和60年には12万人、平成7年には16万人と4倍に急増した後は、平成22年の17万8千人をピークに緩やかに減少しています。また、人口構成を見ると少子高齢化が進行していることが分かります。

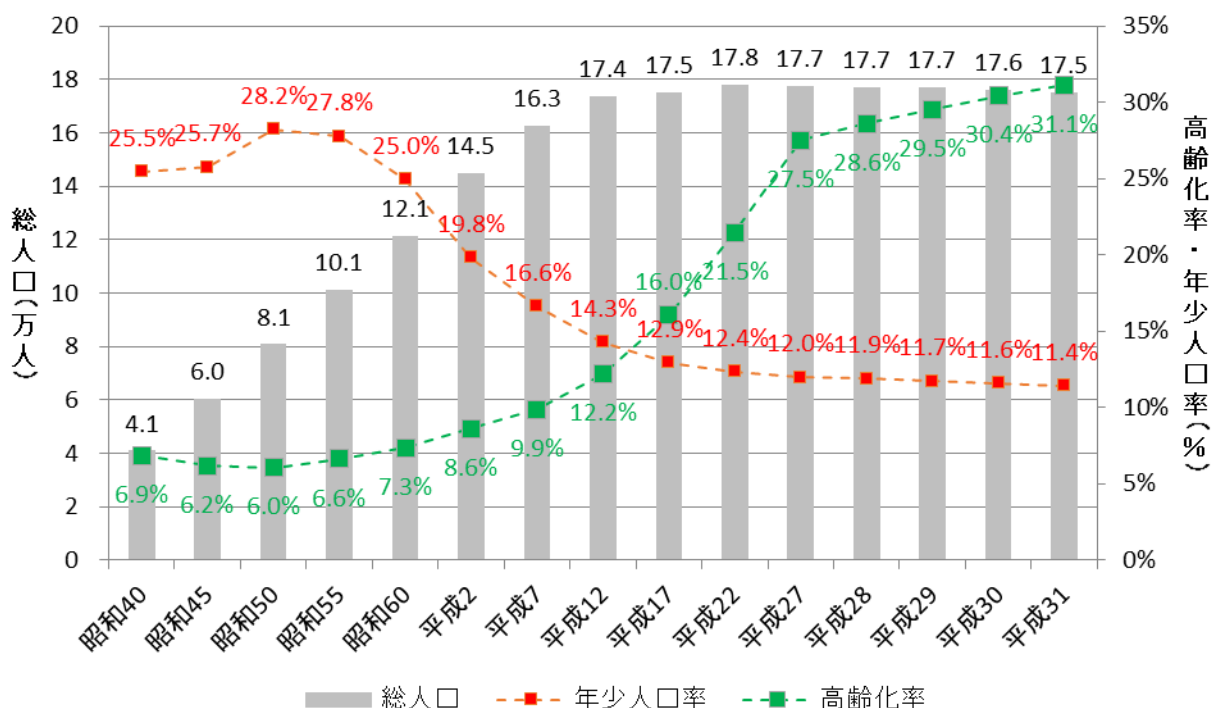


図 総人口及び高齢化率・年少人口率の経年推移（各年3月の数値）

（出典：平成2年まで国勢調査、平成7年以降は住民基本台帳人口）

※住民基本台帳人口のうち、平成7～17年には、外国人を含まない

（２）地区別の人口状況

高齢化率は和田地区・弥富地区が高くなっていますが、高齢者の人口は居住人口の多い志津地区が最も多くなっています。

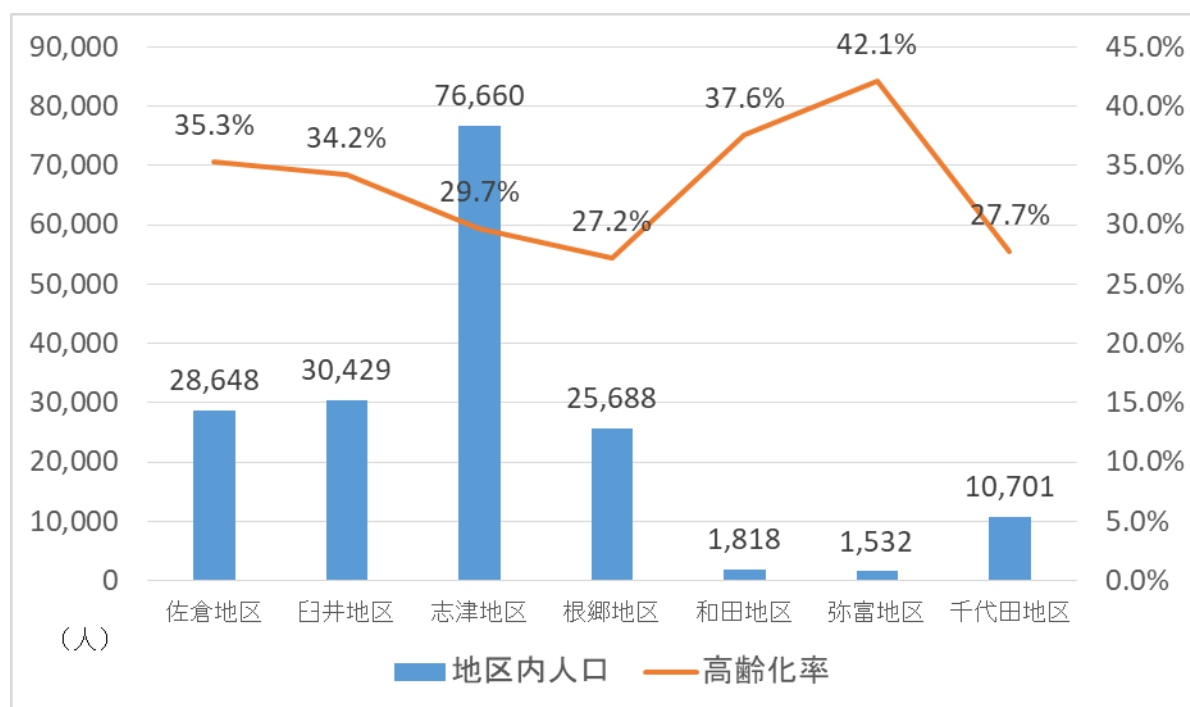


図 地区別人口と高齢化率の状況（出典：住民基本台帳 平成31年3月末時点）

(3) 人口の将来推計

佐倉市の人口は、今後はゆるやかに減少していくことが予測されるうえ、特に高齢化の進行が順次急速な高齢化顕著に見られ、2040年には40%を超えているものとみられます。

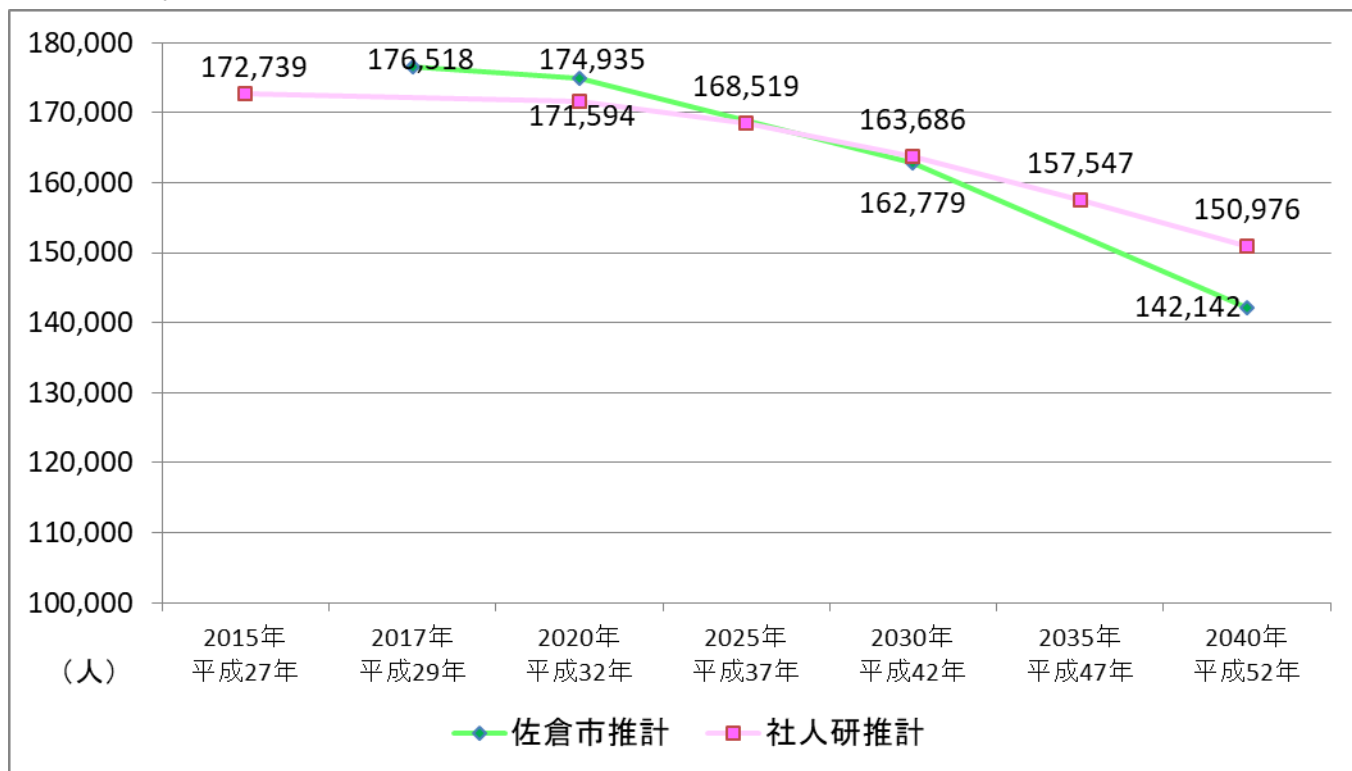


図 佐倉市の将来人口推計

(出典：第5次佐倉市総合計画策定に向けた基礎調査報告書（平成30年8月）、社人研データ（平成30年3月30日）)

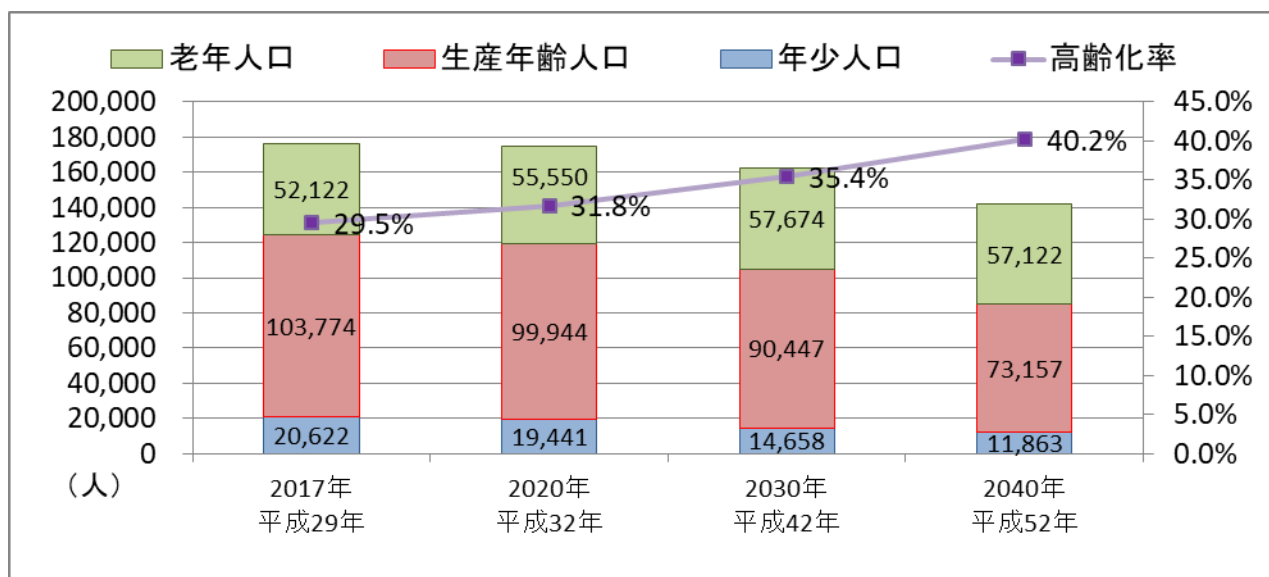
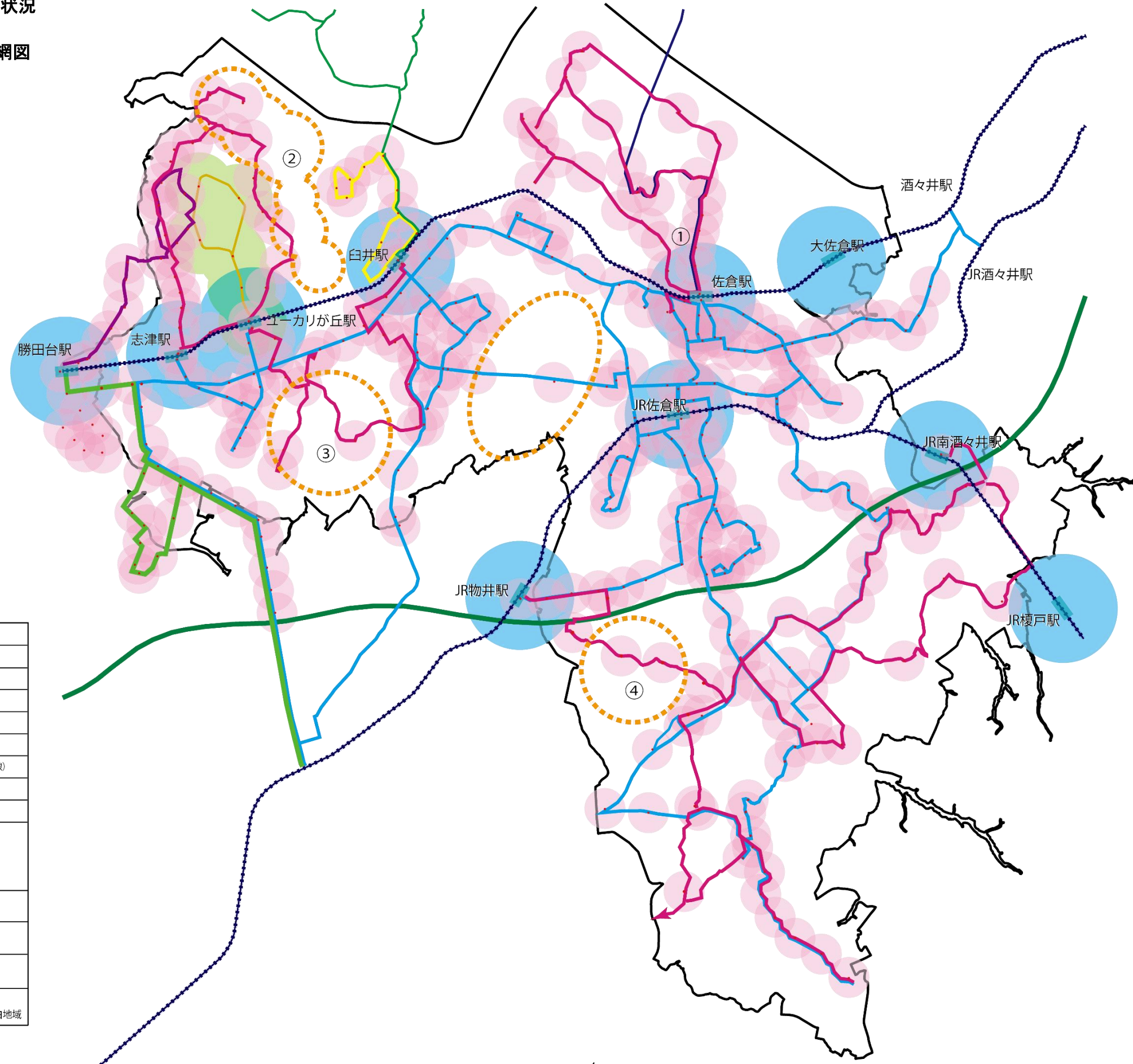


図 世代別の将来人口推計（出典：第5次佐倉市総合計画策定に向けた基礎調査報告書（平成30年8月）)

2. 公共交通網の整備状況

(1) 佐倉市公共交通網図

凡 例	
	鉄道
	鉄道駅
	山万(新交通システム)
	ちばグリーンバス
	千葉内陸バス
	東洋バス
	京成タクシー佐倉(八幡台団地線)
	なの花交通(六合路線)
	大成交通(宗像路線)
	佐倉市コミュニティバス ①内郷ルート ②志津北側ルート ③畔田・下志津ルート ④南部地域ルート
	鉄道駅から800m
	モノレール駅から500m
	バス停から300m
	一次計画で定めた 一団のまとまりのある交通空白地域



佐倉市公共交通網図(運行主体別)
(平成31年4月時点)

(2) 佐倉市内の路線バス

市内に停留所を持つ路線バス事業者は 6 社で、18 路線が運行されています。利用
者数は、平成 27 年から減少しています。

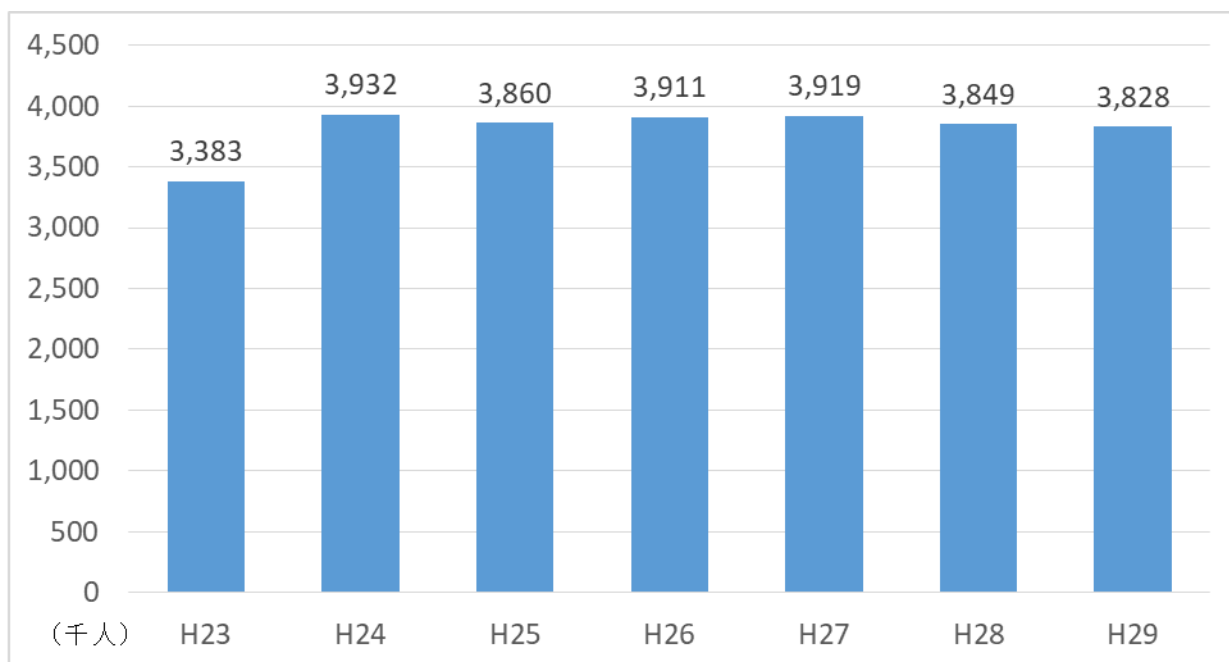


図 路線バス輸送人員の推移 (出典：佐倉市統計表)

② ニーズの把握

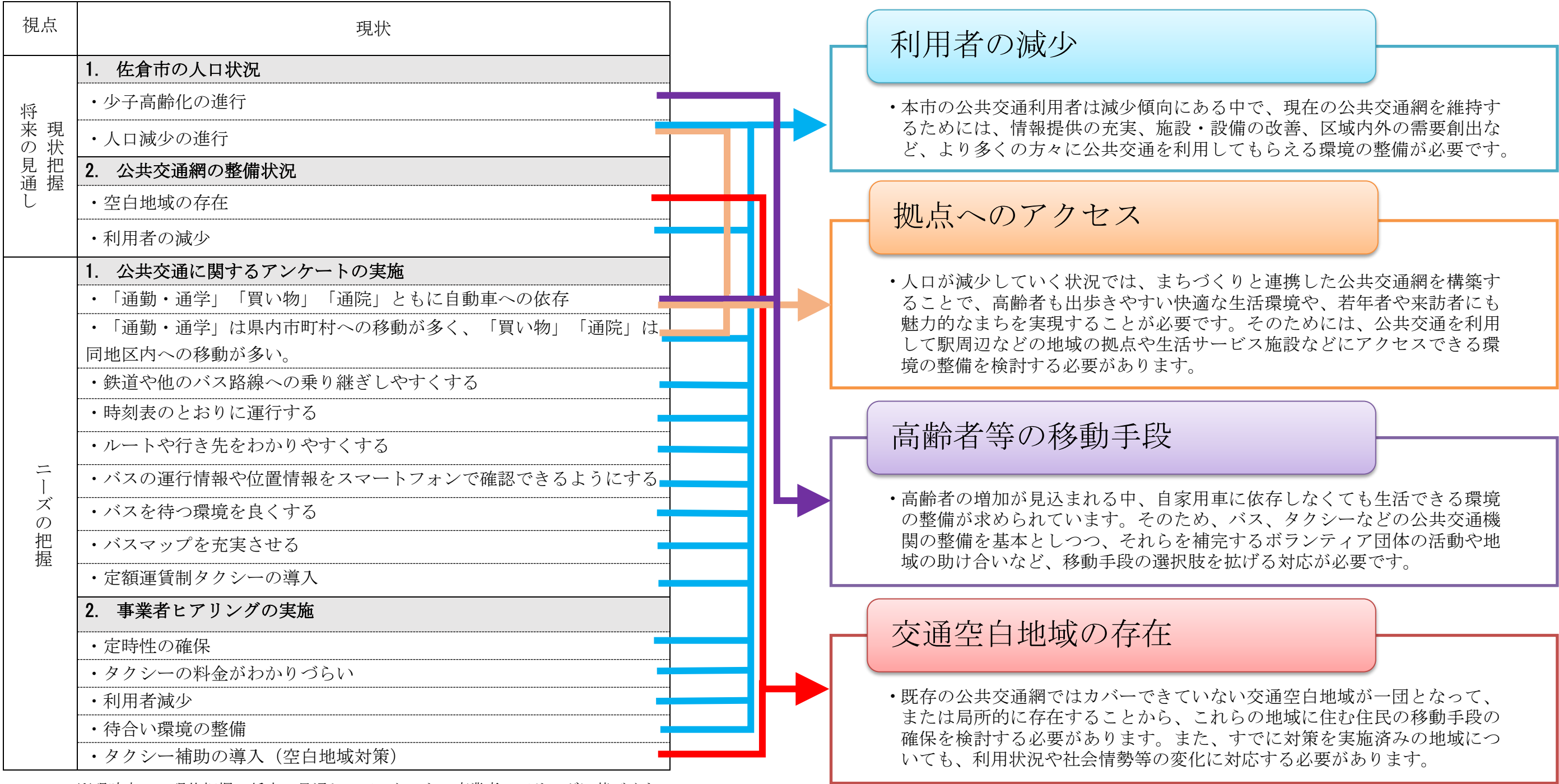
次期佐倉市地域公共交通網形成計画の作成にあたり、市民の移動実態や公共交通のニーズ等を把握するために市民アンケートと交通事業者ヒアリングを行いました。

	市民アンケート	交通事業者ヒアリング
実施方法	郵送配布・回収	事業所に伺い実施
実施期間	平成 31 年 3 月 8 日～平成 31 年 3 月 29 日	平成 31 年 4 月 16 日～令和元年 5 月 8 日
対象者	住民基本台帳をもとに、市内在住で 18 歳以上の 1,000 人を無作為抽出 回収率 45.7%	市内の交通事業者 7 社 ・京成タクシー佐倉株式会社 ・志津タクシー有限会社 ・ちばグリーンバス株式会社 ・千葉内陸バス株式会社 ・東洋バス株式会社 ・なの花交通バス株式会社 ・山万株式会社
結果	別紙資料 4 参照	別紙資料 5 参照

③ 課題の整理

佐倉市の現状やアンケート調査を踏まえ、佐倉市の公共交通における課題を次の通り整理しました。

【佐倉市の公共交通における課題】



※現時点での現状把握、将来の見通し、アンケート、事業者ヒアリングに基づくもの

【佐倉市の公共交通における課題】

利用者の減少

- 本市の公共交通利用者は減少傾向にある中で、現在の公共交通網を維持するためには、情報提供の充実、施設・設備の改善、区域内外の需要創出など、より多くの方々に公共交通を利用してもらえる環境の整備が必要です。

拠点へのアクセス

- 人口が減少していく状況では、まちづくりと連携した公共交通網を構築することで、高齢者も出歩きやすい快適な生活環境や、若年者や来訪者にも魅力的なまちを実現する必要があります。そのためには、公共交通を利用して駅周辺などの地域の拠点や生活サービス施設などにアクセスできる環境の整備を検討する必要があります。

高齢者等の移動手段

- 高齢者の増加が見込まれる中、自家用車に依存しなくても生活できる環境の整備が求められています。そのため、バス、タクシーなどの公共交通機関の整備を基本としつつ、それらを補完するボランティア団体の活動や地域の助け合いなど、移動手段の選択肢を拡げる対応が必要です。

交通空白地域の存在

- 既存の公共交通網ではカバーできていない交通空白地域が一团となって、または局所的に存在することから、これらの地域に住む住民の移動手段の確保を検討する必要があります。また、すでに対策を実施済みの地域についても、利用状況や社会情勢等の変化に対応する必要があります。

【将来像（基本方針）】

まちの骨格となる公共交通網が広がる都市 佐倉

【目標】

公共交通を利用したくなる環境創出

- 自家用車から公共交通への利用転換を促していくために、公共交通を利用する際に多くの方が抵抗を感じる事項を解消し、より多くの方々に公共交通を利用してもらえる環境の整備を行います。

様々な特性に応じた移動手段の確保

- 拠点や生活サービス施設へのアクセス向上や、高齢者等の移動手段の確保、交通空白地域への対応について、その地域や人の特性に応じた移動サービスを検討します。

行政・市民・交通事業者の連携強化

- 現状の公共交通網を維持・拡充していくためには、交通事業者との連携強化が不可欠であるため、協議などを実施します。
- バスやタクシーを補完する市民が主体となった移動サービスへの支援を検討します。

【推進体制】

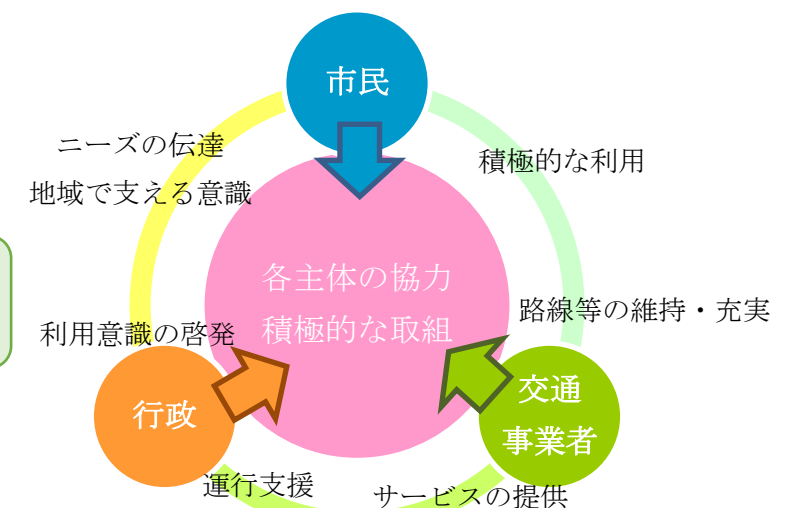
「市民」・「交通事業者」・「行政」の3者の協働

【実施事業のイメージ】

- ① 交通マップの作成
- ② 定時性の確保に向けた取組
- ③ ベンチ、上屋等の整備
- ④ 情報提供の充実
- ⑤ モビリティマネジメントの実施

- ① まちづくりと連携した路線の運行
- ② コミュニティバスの運行
- ③ 新しいモビリティの導入検討

- ① 公共交通事業者との対話機会
- ② 地域独自の移動サービスへの支援



【行政・市民・交通事業者の役割】

⑤ 計画策定スケジュール（案）

		平成30年度					令和元年度												令和2年度
		11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
上位計画	第5次総合計画	策定作業												○					
														議案提出					
関連計画	都市マスタープラン 立地適正化計画 等	見直し作業の着手																	
地域公共交通網形成計画		第1次期間（H29年度～H31年度）																	
地域公共交通会議		●						①					②			③		報告 ④	次期 計画
市民・事業者の参画	市民アンケート																		
	事業者ヒアリング																		
	住民への意見聴取																		
	パブリックコメント																	パブリック コメント	
業務内容		1.現状把握 (1)佐倉市地域公共交通網形成計画の評価 (2)基礎データの整理						課題の整理					計画素案協議①			計画素案協議②		計画書策定	
		2.地域公共交通の点・課題の整理						3.次期計画の基本方針					4.目標の実現に向けた実施事業の検討			5.目標値の検討			